

# コロナウイルスワクチン接種後にみられる「ぶどう膜炎（虹彩炎）」 総合内科・総合診療科、眼科、耳鼻咽喉科、病理診断科の連携による診断と治療

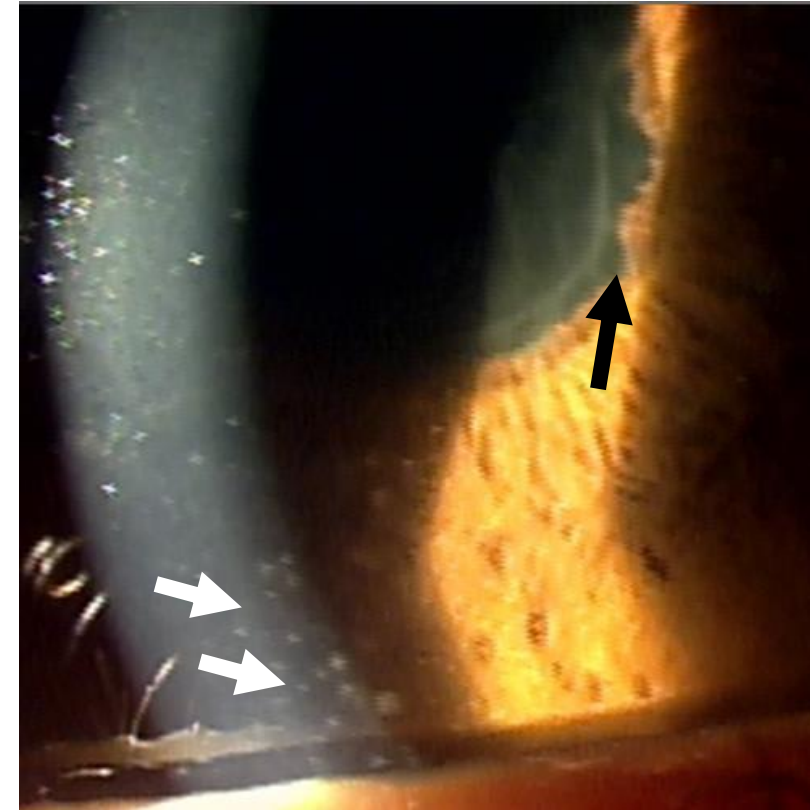
眼球の中で起こる炎症を総称して「ぶどう膜炎」と呼びます。眼球内前方の虹彩のまわりの炎症は「虹彩炎」と呼び、後方の網膜や脈絡膜で炎症があれば「網膜炎、脈絡膜炎」と呼びます。

虹彩炎では、右の写真のように透明な角膜の裏面に白血球のかたまりが沈着する「角膜後面沈着物」（白矢印）や虹彩癒着（黒矢印）が見られます。症状は「目がかすむ」や「充血」です。

ぶどう膜炎は、眼だけで炎症が起こる場合と、全身の炎症の病気が眼にも出る場合があります。眼科は内科や小児科をはじめ色々な診療科と連携して診断し治療します。「ぶどう膜炎」を起こす全身の疾患には、サルコイドーシス、ベーチェット病、原田病、間質性腎炎、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）などがあります。糖尿病でも「虹彩炎」を起こし、虹彩炎で眼科を受診して糖尿病と分かることもあります。

これまでさまざまなワクチン接種後にまれに「ぶどう膜炎」を起こすことが知られていて、「ワクチン関連ぶどう膜炎」と呼ばれています。コロナワクチン接種後に「ぶどう膜炎」を来すことが稀にあることも、最近、世界中で報告されています。

このたび、総合内科／総合診療科、眼科、耳鼻咽喉科、病理診断科が連携して、コロナワクチン接種後に「ぶどう膜炎」を来した方が実はサルコイドーシスであることを診断して治療していることを報告しました。コロナワクチン接種後には、稀に眼のかすみや充血が起こることもあることをお知らせします。



眼科 眼炎症（ぶどう膜炎）・腫瘍外来担当 松尾俊彦

Toshihiko Matsuo, Hiroyuki Honda, Takehiro Tanaka, Kensuke Uraguchi, Masaaki Kawahara, Hideharu Hagiya. COVID-19 mRNA Vaccine-Associated Uveitis Leading to Diagnosis of Sarcoidosis: Case Report and Review of Literature. Journal of Investigative Medicine High Impact Case Report. 2022;10:23247096221086450. doi: 10.1177/23247096221086450.



岡山大学病院  
OKAYAMA UNIVERSITY HOSPITAL  
1870